

プロジェクトK

～ずっと住み続けたいと思うまちづくり～



～4月にオフィスを開設したアリノスは農業の6次産業化に向けて事業展開しています～

○プロジェクトK

現在、川根本町では「ずっと住みたいと思うまちづくり」を目指して「プロジェクトK」という取り組みが進められています。

この取り組みのきっかけは、平成29年4月にサテライトオフィスを開設したゾーホージャパンがその企業理念である「人の役に立ち、人と喜びを分かちあう」ということに基づいて、この町に連携の仕組みを作ろうと提案したことがはじまりです。その想いに共感した様々な団体が集まり、町の企画課がその事務局となるかたちで、その年の6月からまちづくりの活動がスタートしました。

「プロジェクトK」という名前については、グループの中心となったゾーホージャパンがかつて立ち上げた問題解決チーム「プロジェクトZ」に、川根の頭文字であるKを組み合わせたものです。

○素早い活動展開

さまざまなメンバーが集まるプロジェクトKでは、「スピード」と「連携」が重視されます。それは、毎月欠かさずに行われている会議の方法にもあらわれています。

各メンバーが「活動リスト」として「それぞれの専門分野においてできること」、「実行中の取り組み」などまとめた資料を作成しながら、進捗状況をお互いに共有して方向性や問題点や改善案、協力できることなどを話し合うという形式を取っています。従来の会議のように「会議で話し合っただけ」ではなく「現在進行中の取り組みについてお互いに考える」ことで、柔軟かつスピーディーな事業展開が図られてきました。

○メンバーの強みを活かす

企業誘致は代表的な取り組みのひとつです。

首都圏から企業経営者などを招き生活環境や町の現況を紹介する

- 現在のプロジェクトKメンバー
- ゾーホージャパン株式会社
- 株式会社経営参謀
- 株式会社アリノス
- NPO 法人かわね来風
- 一般社団法人エコティかわね
- まちづくり観光協会
- 静岡県中部地域局
- 町観光商工課
- 町企画課

○まちづくりの目標

この取り組みの最終目標である「このまちに住む人々が、ずっと住み続けたいと思えるような町」とは、どのようなものなのでしょうか？

プロジェクトKでは「サービスの総生産額の増加」「就業人口の増加」「人口減少の抑制」の3つを柱として活動することで、その目標に近づくことができるのではないかと考えました。

現在は「定住人口（移住者）を増加させることが地域の活性化と新たな産業や雇用の創出につながる」ととらえ、様々な活動を展開しています。

現地見学会を開催するほか、サテライトオフィス開設を検討する企業に対して土地や空き家物件などを紹介するといった活動を行ってきました。それぞれのメンバーが得意な分野で力を発揮することで、町が単独で行うよりもはるかに効果があがっています。

○選んでもらえる環境を

プロジェクトKの活動により、企業が町内に進出しやすく、働きやすい環境が整備されてきました。

2年前に県と町が誘致したゾーホージャパンのサテライトオフィスでは、当初のコールセンター業務から事業規模を拡大、昨年2月

○取り組みはつづく

プロジェクトKでは、今後も企業誘致のための環境整備や空き家の紹介といった活動を継続しつつ、より多くの移住・定住の増加につながっていくよう、この町が持つ強みや魅力を効果的に情報発信していきます。

と7月には社員寮が増設され、本町を同社の開発拠点のひとつとすべくインドから開発者が来訪するようになりました。

また、今年の4月にはアリノスが奥泉へオフィスを開設。町内におけるゆず生産事業の大規模化、製品の企画・販売までを手がける6次産業化により「稼げる農業」のモデル目指す取り組みが始まりました。

さらに7月には、プロジェクトKに創設時から関わっていた経営参謀が千頭にオフィスを開設、さらなる企業の呼び込みを行うべく事業を始めています。



～ゾーホージャパンではインドから来日したスタッフが開発作業を行うようになりました～

